

口腔科学教育部研究奨励賞 研究成果報告書

口腔科学教育部口腔科学専攻口腔顎顔面矯正学分野
大学院博士課程4年次 岩浅亮彦

研究成果の内容と自己評価

私は、『シェーグレン症候群の病態形成におけるアロマターゼと脂肪組織との関連性』というテーマで研究を行っています。外分泌腺である涙腺、唾液腺を標的とするシェーグレン症候群は、特に閉経期以降の女性に好発する自己免疫疾患です。自己免疫疾患の多くは原因不明の難病であることから、本疾患の原因を明らかにし、疾患特異的な根治的治療法の開発が重大な研究課題です。従来、閉経期前後における女性ホルモン産生量の変化が免疫システムの維持に影響を与え、自己免疫疾患の発症に関与しているものと考えられてきましたが、特定の臓器が自己免疫反応の標的となる詳細な分子メカニズムについては不明です。

そこで、本研究では、エストロゲン産生に異常をきたすアロマターゼ遺伝子欠損 (ArKO) マウスと、アロマターゼインヒビター (AI) を投与したシェーグレン症候群モデルマウスにおける、エストロゲン産生異常がシェーグレン症候群の病態形成へ及ぼす影響について検討を行い、アロマターゼ欠損またはアロマターゼ阻害によるエストロゲン産生異常による肥満が、マクロファージなどの抗原提示細胞に影響を与え、涙腺、唾液腺におけるシェーグレン症候群様の自己免疫病態の発症、増悪に関与する可能性があることを明らかにしました。

これらの研究成果については、国内外の様々な学会で発表しており、平成25年6月に行われた第12回四国免疫フォーラムでは、「四国免疫フォーラム奨励賞」を受賞しました。その内容については、四国歯学会雑誌に掲載予定であり、また英語論文としても現在投稿中です。今回受賞させていただきました、口腔科学教育部研究奨励賞を研究費の一部とさせていただいた結果、円滑に研究計画を実行することができ、十分な成果が得られたと思います。

最後になりましたが、この度、口腔科学奨励賞に採択して頂きました関係各位の先生方、ならびに、研究に際しましてご指導ご支援いただきました徳島大学大学院口腔科学教育部の先生方にこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

業績一覧

所属研究科(教育部)名: 口腔科学教育部
専攻名: 口腔科学専攻 口腔顎顔面矯正学分野
氏名: 岩浅亮彦

1. 国内学会発表(講演報告題目, 発表学会, 年月, 共同研究者)
 - 1) アロマトラーゼ遺伝子欠損マウスにおけるシェーグレン症候群様病変と肥満との関連, 第12回四国免疫フォーラム, 2013年6月, 岩浅亮彦, 新垣理恵子, 山田安希子, 工藤保誠, 石丸直澄
 - 2) アロマトラーゼ遺伝子欠損マウスにおける肥満とシェーグレン症候群様病変との関連, 第102回日本病理学会, 2013年6月, 岩浅亮彦, 近藤智之, 黒澤実愛, 新垣理恵子, 山田安希子, 田中栄二, 工藤保誠, 石丸直澄
 - 3) アロマトラーゼ遺伝子欠損マウスにおけるシェーグレン症候群様病変と肥満との関連, 第72回日本矯正歯科学会大会, 2013年10月, 岩浅亮彦, 石丸直澄, 井澤俊, 徳永律子, 工藤保誠, 田中栄二
 - 4) Relationship between aromatase-related obesity and autoimmunity in Sjögren's syndrome. 第42回日本免疫学会学術集会, 2013年12月, 岩浅亮彦, 新垣理恵子, 山田安希子, 田中栄二, 工藤保誠, 石丸直澄
2. 国際会議発表(講演報告等題目, 発表学会, 開催地, 年月, 共同研究者)
 - 1) Relationship between aromatase and adipose tissue in the pathogenesis of Sjögren's syndrome. The 9th International Congress on Autoimmunity, Nice France, 2014年3月, IWASA Akihiko, ARAKAKI Rieko, YAMADA Akiko, KONDO Tomoyuki, KUROSAWA Mie, TANAKA Eiji, KUDO Yasusei, ISHIMARU Naozumi.
3. 論文発表(研究論文題目, 発表誌, 巻, 号, 頁, 著者名)
 - 1) (掲載予定) シェーグレン症候群の病態形成におけるアロマトラーゼの役割, 四国歯学会雑誌, 第27巻, 第1号, 岩浅亮彦